

石心会グループ

社会医療法人財団 石心会
社会福祉法人 石心福祉会
医療法人社団 東京石心会

石心会 BULLETIN~ 季刊

海燕

うみつばめ No.44 2010.1.22

編集 石心会グループ

発行人：石井 暎禧 編集長：辻田 征男 副編集長：高本 哲男

〒212-0013 川崎市幸区堀川町 580 ソリッドスクエア東館 4 階

TEL.044-511-2266 (代) FAX.044-540-1135 <http://www.sekisinkai.or.jp>

職員の皆さん 新年明けましておめでとうございます。

2010年が始まりました。

振り返ってみると昨年は、わがグループにとってイベントの大変多い年でした。まず最初にあげられるのは、11月に石心会が社会医療法人として出発できたことです。

その中で、新緑会は東京石心会と名称変更しました。次に、念願の川崎幸病院の移転新築工事を開始することが出来ました。狭山病院・さやま総合クリニックにおいては、南棟、管理棟改修工事、健康管理センターの工事が完成しました。さやま総合クリニックにおいて1.5テスラのMRIも稼動を始めました。新緑脳神経外科においては、サイバーナイフの体幹部治療が一部開始されました。これらは、年初に計画を立てたことですが100%実現できたことは大変幸運だったといわねばなりません。

さて、2010年の今年は診療報酬改定の年ですが、すでに報道されているとおり、医療崩壊に歯止めをかけるという当初の政権の掛け声とは裏腹に微々たる改定に終わることが確実となりました。しかし、この事が、石心会グループの経営に直接影響することはないと言い切ってよいと思います。

グループが誕生して36年間の経営成績の浮沈は、事業拡大の投資とマンパワーの確保に規定されています。少し乱暴に言うと、診療報酬が上がろうと下がろうと我々には関係ないのです。だからといって油断してよいと言っているわけではありません。グループの実績は、たとえ、診療報酬改定による収入のダウンがあっても、それをものともしないスピードで事業を拡大し、改善してきたことを物語っているということなのです。

しかしながら、今回改定は、医療崩壊の寸前にある病院にとっては、大変に酷な結果をもたらす可能性があります。

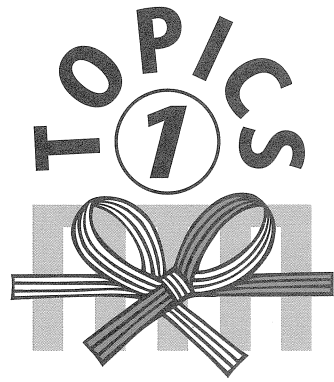
地域の医療が崩壊しないよう、わがグループがさらになんばって支えていかなければなりません。



本誌タイトル『海燕』は、M.ゴーリキーの散文集『海燕の歌』(1901)に由来しています。その大意は以下のとおりであり、石心会のイノベーションマインドの象徴として採用しました。

……暗鬱な雲がたれこめ、雷鳴が轟く空と海、戸惑い騒ぐばかりの鴉らの群れを尻目に、

海燕は激しく飛び交い、暗雲と雷鳴を切り裂いて一直線に飛翔する。



川崎幸病院 新築移転工事の起工式終わる

昨平成21年11月13日、川崎幸病院の新築移転工事起工式が幸区大宮町の新病院建設地で執り行われました。神事では、石井暎禧理事長が鉤(くわ)、山下設計 森社長が鎌、鹿島建設 野村横浜支店長が鋤(すき)を入れ、工事の安全を祈願しました。

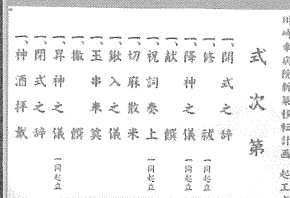
続く、直来(なおり)で、石井理事長は「新病院は救急医療など、これからの医療に対応する十分な機能を持っており、完成の暁には、自信を持って、今まで以上に川崎市民の健康を守るために邁進していきたい」と挨拶しました。



玉串奉奠 (たまぐしほうてん)



石井理事長による鉤入れ



神酒拝戴 (しんしゅはいたい)

祝 起工 川崎幸病院新築移転計画

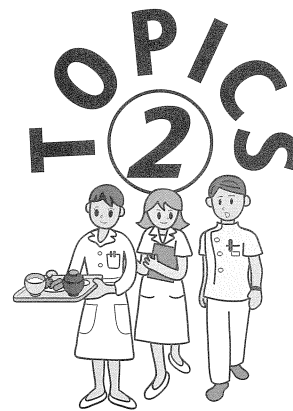


『川崎市民の健康を守るため、自信を持って邁進していきたい』
直会(なおり)で挨拶する石井理事長



新川崎幸病院 完成イメージ図

新病院は川崎幸病院(203床)と川崎幸病院中原分院(62床)の医療機能を集約し、許可病床合計265床にて運用されますが、将来の増床の可能性をにらんで、350床規模までを想定した設計となっています。工事竣工は平成23年12月、開院は翌平成24年4月を予定しています。



「楽しく」「美味しく」「長生き」 さやま腎クリニック透析食 レシピコンテストに入賞

狭山病院 コメディカル部部长 栄養室 室長 大川 清

この度、さやま腎クリニックの作品が「第2回 バイエル・レシピコンテスト」(主催:バイエル薬品株式会社)のサポート部門において入賞を果たしました(受賞式は3月13日(土)に予定されています)。このコンテストは、透析患者さんのためのオリジナルレシピを「楽しく」「美味しく」「長生き」をキーワードに公募したもので、全国の病院や施設、給食事業者はもちろん、透析患者さんやそのご家族の方などから多数の応募がありました。

以前から当院では、栄養部門の教育の一環として、スタッフが複数のチームに分かれて職員食

メニューを考案、実際に食べていただいた職員からのアンケートで評価される「院内調理コンテスト」を実施しており、スタッフはこうした活動を行うじて料理のアイデアを競うことに意欲と喜びを持つようになっていました。

そうした中で、今回のレシピコンテストが開催されることを知ったわけですが、様々な条件がある透析食において、栄養的にはもちろん、味と見た目にも喜んでいただけるメニューを工夫することは、われわれ栄養部門にとって非常にチャレンジングなことであり、まずは腕試しの意味で応募することにしました。



Congratulations.

“これから患者さんに喜んでいただける食事を”
(狭山病院 栄養室スタッフ)

後列左から 秋山(係長 管理栄養士)、粕谷(調理師)、豊田(係長 調理師)
前列左から 山上(管理栄養士)、大川(本人)、森(管理栄養士)

応募に際しては、栄養士と調理師スタッフが5チームに分かれてエントリーしました。応募した「サポート部門」の審査は、1日(3食)分のレシピの内容と実際に調理した料理の写真で行われますが、特に、①一食のバランス、②栄養管理(栄養価)、③独自性や創造性、④手軽さ、⑤活動内容(栄養サポート)が評価のポイントです。

応募したメニューは、日頃から工夫してきた「透析献立」をベースにしながらも、各チームが透析患者

さんの顔を思い浮かべながら考え出したコンセプトによるもので、試調理をいくたびか重ねたうえで、本選用の調理を行いました。

今回の受賞は栄養部門としてはもちろん、医療をサポートするコメディカル部門にとっても喜びであり、今後の職務に向けて一層の励みとなるものです。また、これを機会に、オリジナル透析食レシピを一冊にまとめ、通院されている患者さんへの配布も検討しています。

受賞
作品
朝食



ピザトースト、
モヤシと木耳のサラダ、
フルーツポンチ、コーヒー

受賞
作品
昼食



タイ風やきそば、焼きエリンギの酢の物、
コーラゼリー

受賞
作品
夕食



鮭とキノコの炊き込みご飯、
海老とアスパラのかき揚げ(狭山茶 抹茶塩 添え)、
和風ロール、白菜オレンジシャーベット

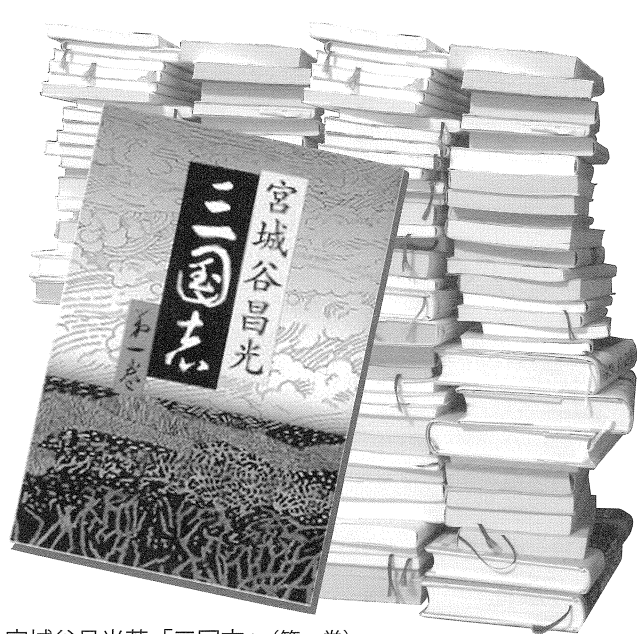
読書のすすめ

狭山病院 副院長 呼吸器内科 部長 青島 正大

宮城谷 昌光の 歴史小説

現在はマイカー通勤であるが、以前大学病院に勤務していたころは、電車通勤の友は読書であり、年間100冊ほどの単行本、文庫本を読み漁っていた。濫読家の自分は文芸書はフィクション、ノンフィクションを問わずいろんなジャンルを読むが、その中で最も多いのが歴史小説である。最近「レキジョ」なんて言葉があるくらいの歴史ブームで、これにはテレビドラマやゲームなどの影響が大きいが、自分の場合は小学生の終わりに読んだ「三国志」が最初に影響を受けた本である。以後40年近くにわたり読み続けてきたが、その舞台は日本、中国やエジプト、ローマ、時代も古代から近現代にわたる。作家はそれぞれの地域、時代を得意とする人がそれぞれの味を出しているのが面白い。気に入った作品は長く手元に置き、何度も繰り返し読むというのが自分流だが、その中で最も多くの作品を繰り返し読んだ作家は宮城谷昌光である。ある時ふと思いついて、ウィキペディアで調べてみたら、中国を舞台にしたものは現在進行中の「三国志」を含めてすべてを読んでいる事が分かった。

彼は中国の先秦時代～古代を得意としていて、それまでは秦漢革命期までしか描かれることのなかったこの分野で、春秋戦国期はもとより商周革命、夏商革命さらには夏の建国者である禹の時代まで遡り、生き生きと描いた作品を世に出している。その中で最も印象に残っているのは「楽毅」「子産」「晏子」「天空の船」である。「人がみごとに生きることは、むずかしいものだ」「十一歳の少年の目に、大人たちのうごきは、周章狼狽のようにうつた。この小国は・・・と、少年はつぶやき、すぐに語気が萎えた」「白い指が帳のへりを撫でた。室内にはいつてきた初夏の風が、帳をふくらませ、白い指のうえを通った」「女は夢うつつにいる・・・どろりと重い気のようなものを体膚に感じた。何かが、自分の体内にはいつてくる」それぞれこの4つの作品の冒頭である。何かを予感させ読者を引き込んでゆく始まり。このように彼の作品に共通するのは、文のリズムが心地よいこと、読了した時点で、もう少し続きを読みたいと感じることであり、読後感がさわやかで、もう一度最初から読み返したいと思うことである。確かに長編ながらどれも3回以上全編を読み返している。「楽毅」を除く3作の主人公はいずれも小柄な文官で力強くはないが精神に力を持ち、権力を恐れずおもねらず、読むと勇気をわけてもらえる作品である。歴史小説である以上悲劇もあり、また生臭いことを扱わなければならないのだが、氏の筆



宮城谷昌光著「三国志」(第一巻)
¥1,700(文藝春秋社)

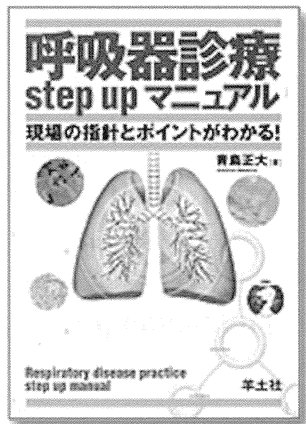
にかかると例えば「奇貨居くべし」の呂不韋や「青雲はるかに」の范雎のような一般にはいやな奴と思われるような人物でも、応援したくなるから不思議である。これも言葉の魔力だろうか。もちろんこれらの作品はあくまでもフィクションであるが、正史をはじめとする膨大な資料をもとに、大昔の人々に命を吹き込んだものである。

専門書ではあるが、私も1人で1冊の本「呼吸器診療STEP UPマニュアル」(羊土社)を執筆し出版した。資料を揃え調べて出版まで漕ぎつけるというのは、大変な作業である。

なりわいにしていると言っ
てしまえばそれまでだが、これだけの作品を世に出すとい
うことの大変さに頭が下がる。彼の他には中国を舞台とした歴史小説は井上靖

(蒼き狼、楼蘭、敦煌、崑崙の玉)、司馬遼太郎(項羽と劉邦)、中島敦(李陵、山月記)、新しいところでは安能務(封神演技、小説十八史略、三国演技)、田中芳樹(風よ万里を翔けよ、奔流、岳飛伝)、伴野朗(呉・三国志、孔明死せず)北方健三(楊家将、水滸伝)、浅田次郎(蒼穹の昴、中原の虹)などを読んでいるが、文のリズムのよさは宮城谷昌光に勝るものはない。

ところで現在、NHKで司馬遼太郎の「坂の上の雲」が放映されている。ブームに乗り遅れまいというわけではないが、この大河小説をもたまた読み返している。今回で読むのは4回目であるが、読み返すたびに新しい発見があるので今度はどんな発見があるか楽しみである。



青島正大 著
「呼吸器診療step upマニュアル
—現場の指針とポイントがわかる!」
¥5,565(羊土社)

『出会い』

～バレーボールをとおして～

川崎幸病院 循環器内科 医師 山崎 継敬

趣味 探訪

人との出会いというのは素敵なもので、数々の人との出会いが進むべき方向を決定し、そして歩き続けるためのエネルギーを与えてくれます。僕には皆さんのように「これだけは誰にも負けない」というような立派な趣味はありませんが、自分の人生に大きく影響したバレーボールについて少しだけご紹介させていただきたいと思います。

僕がバレーボールを本格的に始めたのは高校時代からですが、そのきっかけは中学3年生の時にクラス対抗で行ったバレーボール大会でした。その大会で優勝したわれわれのチームは次に女子バレーボール部とエキジビジョンマッチを行うことになりました。優勝、といっても素人が集まったクラス対抗チーム同士でのことです。その我々が、女子とはいえ、日夜練習に励むバレーボール部と対戦したらまったく歯が立たないのではないかと、僕たち自身を含め、ほとんどの人たちがそう思い、女子バレーボールチームの圧勝を予想していました。ところが、盛り上がり、盛り上がった試合はわれわれの大逆転勝利でした。

なぜ、この試合に勝てたのか。それは、もともと素人チームであった我々が、クラス対抗大会で試合を重ね、それをつうじて、一人ひとりの役割分担が自然と形成され、一本決められれば次はこうしようと対策を話し合い、その結果、試合毎に成長し、強くなっていったからです。

こんな劇的な自分の成長を経験したらもうやめられません。学校は中高一貫だったので、高校入学時には、この時のクラスチームメンバー6人のうち4人がバレーボール部の門を叩いていました。そしてこの時、部監督で、自分の人生に大きな影響を与えた恩師と

もいべき先生に出会います(現在も体育教師を続ける傍ら、東京ヴェルディバレーボールチームに所属されています)。入部当時、僕は身長161cm、体重49kgという超華奢な体でしたが、一年生の時の誕生日に、この先生から「これで朝から一合食え」と大きな丼のプレゼントが。その後はもちろん、翌日から朝一合、夜2合のご飯を欠かさず食べ続け、そして毎日のように厳しい練習。その結果61kgの体重と正セッターの座を手に入れることが出来たのです。今思えば、この時に僕のトレーニング人生が始まっていたのかもしれません。

この先生の座右の銘は「俺は強い」。これは単に力が強いということではなく、常にpositive thinkingでい続けろという教えです。最近ではアフメーション



幸バレーボールクラブ(SVC) 後列 左から3人目が本人



高校時代の仲間たちと
(OB 戦にて)
最前列中央が本人

という名前でスポーツ界にも広く浸透しています。うまくいかなかった時やつらい時、考え方次第で次の結果がガラリと変わってくる。この考え方は後の自分にとって非常に大きな影響を与えてくれました。

高校卒業後も大学、社会人(実業団+クラブチーム)と素晴らしい仲間たちとバレーを続けることが出来ました。川崎幸病院には平成18年から勤務をしましたが、当初、業務多忙の中でもなんとかバレーボールに触れる機会が作れないものかと思案していました。ところが、院内には僕の予想以上にバレーボール経験者がたくさんいて、そのほとんどがバレーボールを続けたいと考えていることがわかりました。

そこで、病院から一番近くの小学校の施設一般開放を検討する会議に思い切って参加、そこで、週に一度体育館を使用させてもらえることになりました。以来、「幸バレーボールクラブ(SVC)」として、多い日には20人を超える仲間たちとバレーボールを楽しみながら練習しており、この積み重ねが実って、平成21年9月に行われた神奈川県病院協会主催の女子バレーボール大会では、当クラブ女子チームが初めての大会参加にも関わらず、第3位という好成績を収めることができました。今後の目標は男子の試合を組むことと、そして女子のさらなる成績upというところです。

スポーツを通したつながりというのはとても不思議なもので、仕事だけではなかなか作ることのできない連帯感や絆がボール一つで生まれてきます。これは本当に素敵なことです。僕は約20年間セッターをしています。セッターというポジションは一人では何も出来ません。レシーブを上げてもらって、スパイクを決めてもらって、ようやく勝利をつかみ取ることが出来ます。バレーボールをつうじてこうした絆の大切さをより理解出来るようになりました。

これまでにバレーボールをとおしてたくさんの仲間に出会うことが出来ました。ちなみにバレーボールの妻とも。また今年は、ふとした出会いから、日本バレーボール協会の医事役員として任命を受けました。これからもバレーボールをとおしてたくさんの人との出会いが訪れると思いますが、ひとつひとつの出会いを大切に素敵な絆を作っていけたらいいなと思っています。



今回は、さやま総合クリニック「第26回ヘルシーコンサート」
クリスマスコンサートの模様をお伝えします。

～クラシックの名曲に新しい彩り～

クリスマスを控えた昨年(2008)の12月12日に開催されたこのコンサート。
サクソフォン、パーカッション、ピアノという斬新なアンサンブルで、
演奏者はいずれも気鋭の若手ぞろい。耳親しんだクラシックの名曲たちにも
新鮮な彩りが感じられ、一曲一曲に聴衆から感動の拍手が贈られました。



★日時 12月12日(土)18:30～20:00『クリスマスコンサート』 ★会場 3階ピアノホール ★聴衆 60名
★出演 島田 和音(サクソフォン) 成田 宗平(サクソフォン) 大山 博(パーカッション) 赤木 舞(ピアノ)
★曲目 F.シューベルト:『楽興の時 第3番へ短調』 ショパン:『幻想即興曲』 エルガー:『愛のあいさつ』 他

※演奏家プロフィール

島田 和音: 昭和音楽大学器楽学科弦管打楽器指導者コース卒業。
同大学院音楽研究科修士課程修了。国際芸術連盟主
催第33回新人オーディション室内楽部門奨励賞受賞。
現在、演奏活動、コンサート企画等を幅広く展開、吹奏
楽の指導及び作 編曲も手がけている。
音楽集団「L oops!」「リエゾン・サクソフォンアンサン
ブル」各メンバー。

成田 宗平: 昭和音楽大学器楽学科4年在学。第38回東京国際芸術
協会 新人演奏会オーディション合格。
【QUARTET TRIUMPH】テナー奏者として活動中。

大山 博: 東京学芸大学音楽科2年在学中。第6回栃木県ソロコンテ
スト金賞ならびに準グランプリ受賞。
第4回 J B A 関東甲信越ソロコンテスト優秀賞受賞。

赤木 舞: イーストマン音楽院ピアノ専攻および同大学院修士課程
修了。帰国後、東京芸術大学大学院音楽研究科にて文化
政策およびアートマネジメントを学び、博士号を取得。
NYカーネギーホールでのソロ演奏をはじめ、国内外で演
奏活動を行っている。現在、昭和音楽大学音楽芸術運営
学科助教。2006年よりヘルシーコンサートの企画を担当。

☆ヘルシーコンサートのいわれ☆

2003年3月、狭山総合クリニックの院長に就任した青山医師(現狭山病院長)が、クリニックを診療の場としてだけで
なく、地域の人たちの文化的な交流の場にしたいと考え、私財でピアノを購入して提供するとともに、毎週土曜日の
午後からピアノ演奏を主体にした「ヘルシーコンサート」を開催することを決めました。ホームページにも紹介していま
すが、このピアノは世界最高峰といわれる「スタインウェイ アンド サンズ」のコンサート用グランドピアノで、2000年の
ショパンコンクールで圧倒的な実力で一位優勝した中国のピアニスト ユンティ・リ が練習用に愛用したものです。



石心会グループの活動(2009年10月～12月)

● 11月 1日 石心会が社会医療法人に認定され、社会医療法人財団 石心会 と改称いたしました。

川崎幸病院

● 10月17～18日 川崎幸病院・川崎幸クリニック・中原分院合同院内旅行(栃木・湯西川温泉)
● 10月19日 院内保育室ハロウィン
● 10月21日 防災訓練
● 11月17日 第25回うるおいコンサート(合唱団)
● 11月12日 復職支援セミナー
● 11月13日 新病院起工式
● 12月 5日 院内保育室クリスマス会
● 12月12日 第26回うるおいコンサート(弦楽四重奏)
● 12月29日 納会
● 健康講座・出張講演・勉強会
10月 8日 緩和ケアフォーラム 講師:医長 / 高橋保正
10月 9日 幸区ケアマネジャーの会『消化器外科における最新治療から緩和医療まで』 講師:副院長 / 関川光司 参加38名
10月16日 川崎市消防局との意見交換会 参加42名
10月23日 川崎南法人会健康講座『脳卒中について』 講師:副院長 / 岩井良成 参加60名
10月28日 鶴見区消防局との意見交換会 参加40名
11月 5日 内視鏡運営委員会勉強会『ERCPについて』 講師:副部長 / 大前芳男 参加50名
11月 9日 幸区・川崎区循環器ミーティング 講師:副部長 / 村井 治、医長 / 猪原 実 参加15名
11月19日 川崎南青色申告会 理事会健康講座『最新の内視鏡診断と治療』 講師:副部長 / 大前芳男 参加35名
11月20日 川崎市病院協会『救急ワーキンググループ』発足会 参加11病院
11月20日 川崎幸病院健康講座『心房細動治療の最先端』 講師:横須賀共済病院 / 高橋淳先生 参加84名
11月28日 パークシティー新川崎健康講座 『活き活き毎日を送ろう ～認知症の理解と対策～』
講師:川崎幸クリニック院長 / 杉山孝博 参加69名
12月 9日 蒲田法人会健康講座『インフルエンザの予防と対処について』 講師:副院長 / 沢 丞 参加30名
12月15日 川崎南部病病連携の会『病院協会ワーキンググループ立ち上げによる今後の方向性について』 参加12病院
● NST委員会主催勉強会
10月1日・9日・16日・23日・30日 『薬剤と静脈栄養剤、経腸栄養剤の併用』 他 計5回
11月 5日・13日・20日・27日 「意識障害」 他 計4回
12月 3日・11日・18日・25日 「呼吸不全」 他 計4回

川崎幸病院 中原分院

● うるおいコンサート
10月10日 第11回うるおいコンサート 演奏:東京フィルハーモニー交響楽団
11月28日 第12回うるおいコンサート 合奏:洗足音楽大学堀越ゼミ
12月 5日 第13回うるおいコンサート 演奏:いこいシルバークーハーモニカバンド
● 公開講座
10月17日 『太りにくい食事の仕方』 講師:川崎幸病院中原分院 栄養科管理栄養士 / 田内直恵 参加者44名
11月14日 『高血圧のくすりのきほん～2009高血圧治療ガイドラインをふまえて～』
講師:川崎幸病院中原分院 薬剤科薬剤師 / 中島祐美 参加者27名
12月19日 『ベースメーカーって何ですか?』 講師:川崎幸病院 CE科主任・臨床工学技士 / 縮友和 参加者14名
● 院内勉強会
10月28・29日 『針刺し事故対策』 講師:ファイザー株式会社
11月25・26日 『抗菌薬の適正使用～MRSA対策を中心に～』 講師:ファイザー株式会社
12月21・24日 『鎮痛重視の麻酔管理について』 講師:ヤンセンファーマ株式会社

狭山病院

● 10月17日 看護師復職支援セミナー(所沢ミューズ) 4名参加
● 10月10～11日・17～18日・24～25日(同内容で3回実施) 一泊二日職員旅行 参加者:合計187名
行先:大河ドラマ天地人を感じる新潟の旅(越後湯沢温泉と笹田子づくり体験)
● 10月19日～23日 職員季節性インフルエンザワクチン接種期間
● 10月29日 所沢保健所による医療法第25条第1項に基づく立入検査
● 11月 8日 日帰り職員旅行 行先:東京タワーとエプソン品川アクアスタジアム/
グランドプリンスホテル赤坂40階レストラン貸切バイキング 参加者:122名(職員64名、家族58名)
● 11月12日 看護師復職支援セミナー(狭山病院) 参加者3名
● 11月 9日～11日 職員新型インフルエンザワクチン第Ⅰ期接種期間
● 11月25日～27日 職員新型インフルエンザワクチン第Ⅱ期接種期間
● 12月 4日 病院機能評価、認定証交付(認定第GB137-3号)審査体制区分3(Ver6.0)認定期間2009年10月18日～2014年10月17日
● 12月 5日 保育室クリスマス会 (21家族の参加有り)
● 12月 7日～11日 職員新型インフルエンザワクチン第Ⅲ期接種期間
● 12月12日 看護研究発表会(発表11題)
● 12月14日 看護師復職支援セミナー(狭山病院) 参加者3名
● 12月21日 クリスマスキャロル～職員による聖歌隊52名が病棟をまわりました。
● 12月24日・25日 献血(埼玉県赤十字血液センター主催)～2日間で154名の方が協力し、内122名が献血実施しました。
● 院内勉強会
9月9日、10月13日・20日 『咳エチケット(正しいマスクの使い方)』 参加者133名
10月16日 『新型インフルエンザへの対応』 参加者95名
11月13日 『口腔ケアについて(時間短縮を目指す)』 参加者55名
11月17日・25日 『ハイリスク薬品とは・・・』 参加者45名
12月10日 『医療従事者が知っておくべき統計学(基礎編)』 参加者66名
12月15日 『新型インフルエンザへの対応』 (10月16日の青島医師勉強会のDVD視聴) 参加者52名
12月17日 『医療従事者が知っておくべき統計学(応用編)』 参加者30名



石心会グループの活動（2009年10月～12月）

狭山病院	● 狭山地区地域医療連携・公開カンファレンス 10月 9日 『新型インフルエンザへの対応』 講師:副院長 / 青島 正大 参加者98名 10月30日 『PEGとは?胃瘻とは?』 講師:救急部長 / 菅野 壮太郎 『PEGケアについて』 講師:西病棟看護師 / 馬場 良子 参加者126名 11月26日 『甲状腺腫瘍の診断方法』講師:さやま腎クリニック 院長 / 小野田 教高 『甲状腺・副甲状腺の外科治療』 講師:外科医長 / 児玉 ひとみ 参加者87名 11月27日 『今後、日本の医療体制はどう変わるか?～特に救急医療について～』 講師:埼玉医科大学総合医療センター 高度救命救急センター 教授 / 堤 晴彦 参加者116名 12月11日 『糖尿病診療の最前線・最近注目されている話題』講師:さやま総合クリニック 内科副部長 / 三好洋二 参加者80名 12月21日 『冠動脈ステント血栓症の問題点とその対策』講師:帝京大学医学部付属病院 循環器内科 准教授 / 上妻 謙 参加者70名
川崎幸クリニック	● 糖尿病講座 10月7日・12日 参加者計14名 ● 気功教室 10月21日・18日、12月9日 講師:臨床心理士 / 稲富 正治 参加者計31名 ● 心理相談室公開講座 10月14日 『リラックス健康法』 参加者5名 12月 9日 『A D H D (注意欠陥多動性障害)を知ろう』 参加者4名
川崎クリニック	● 11月14日 院内勉強会 『末梢動脈疾患について』 参加者23名 ● 12月 1日 避難訓練 参加者41名 ● 12月 6日 第8回石心会CE合同ミーティング 参加者65名 ● 12月10日 K Y T 勉強会 参加者27名
川崎健診クリニック	● 11月 6日 東京都多摩がん検診センター 第一回胃X線検査従事者講演会 『胃癌診断学の原点』 参加者2名 ● 11月11日・12日 社団法人全国労働衛生団体連合会 純音(気導聴力検査技術講習会 参加者1名 ● 11月28日・29日 社団法人全国労働衛生団体連合会 超音波検査技術講習会参加者1名 ● 12月17日・18日 社団法人全国労働衛生団体連合会 健診機関職員講習会 参加者2名
狭山総合クリニック	● 糖尿病教室 10月 1日 「糖尿病と日常生活・足の手入れ」講師:看護師 / 臼井敏子 参加者15名 11月 5日 「眼の合併症について」講師:内科医師副部長 / 三好洋二、眼科医師医長 / 鈴木俊一 参加者15名 12月 3日 「ヘルシーおせちに挑戦!!」講師:管理栄養士係長 / 蒲池裕子 参加者15名 ● 健康教室 12月17日 「乳がん健診のすすめ」講師:外科医長 / 児玉ひとみ、放射線技師/樋口あや 参加者10名
さいわい鹿島田 クリニック	● 10月 7日 消防署立入り検査 ● 10月23日・30日 糖尿病に関する勉強会主催 鹿島田CL看護科 参加者15名 ● 10月29日 木曜日に女医による乳がん、子宮癌検診開始 ● 11月 5日 フォーカスチャータリング勉強会主催 鹿島田CL看護科 参加者15名 ● 11月 8日 石心会・東京石心会透析施設交流会 主催 石心会・東京石心会 会場 飯能プリンス 出席9名 ● 11月18日 抹消動脈疾患に関する勉強会 主催 中外製薬 参加者20名 ● 11月26日 停電テスト
さやま腎クリニック	● 10月19日 建物一年点検 ● 10月24日・25日 透析医療マネジメント研究会(山形県) 参加者10名 ● 11月 1日 火木土セミナー透析廃止 ● 11月 8日 第1回石心会・東京石心会透析施設交流会(埼玉県:飯能プリンスホテル) ● 11月24日 指定自立支援医療機関(育成医療・更生医療)に対する実施指導監査 ● 11月29日 埼玉透析医学会学術集会(さいたま市) 発表2演題 CE室 今井 隆二、佐藤 良美 ● 防災訓練 10月13日 職員のみ 参加者32名 12月14日・17日・21日 患者参加型 参加者計120名
昭島腎クリニック	● 院内勉強会 10月 1日 『インフルエンザと感染対策』 講師:大正富山薬品 参加者28名 10月 8日 『透析患者の足のアセスメントケア』 講師:中外製薬 参加者30名 12月17日 『PADに対するフットケア』 講師:カネカメディックス 参加者29名
アルファメディック・ クリニック	● 10月2日 管理栄養士講演 『食事のバランスについて』 講師:シンヨー(株) 参加者130名
新緑会脳神経外科	● 院内勉強会開催 12月10日 講演① 『頸動脈エコーによる動脈硬化の指標』 講師:検査・放射線科 臨床検査技師 / 尾崎聡子 講演② 『Synchronyの照射制度について』 講師:検査・放射線科 診療放射線技師 / 大川浩平 講演③ 『インシデント報告と対策について』 講師:サイバーナイフセンター長 / 佐藤健吾 参加者43名
立川新緑クリニック	● 院内患者対応接遇研修 10月4日、11月1日、12月6日 講師:人材教育インストラクター / 三友祥子 参加者計48名(常勤全員)
立川介護老人 保健施設わかば	● 施設内勉強会 10月21日 『新型インフルエンザについて』 講師:アステラス製薬 参加者34名 11月18日 『事故対応時の注意点について』 講師:事故防止小委員会、サービス向上委員会合同 参加者28名 12月16日 『嚥下について～食事姿勢・トロミの付け方・ムース食試食等～』講師:管理栄養士、言語聴覚士 参加者29名 ● 11月27日 ボランティア交流会 傾聴、趣味講師等10名 他職員 ● 12月25日 クリスマス会 参加者 入所・通所利用者、職員



石心会グループの活動（2009年10月～12月）

特別養護老人ホームオリーブ	● 9月13日 オリーブ敬老会開催 参加者70名 ● 10月13日～11月12日 日本福祉大学実習生研修受入 1名 ● 10月27日 市内最高齢108歳及び100歳 2名の長寿祝いに狭山市市長来訪 ● 11月18日 消防訓練実施 参加者26名 ● 11月19日 入間川中学校生徒の体験学習受入 20名 ● 11月26日 朗読ボランティアによる月1回の朗読会開始 参加者12名 ● 12月 2日～4日 堀兼中学校生徒の体験学習受入 18名 ● 12月20日 オリーブクリスマス望年会開催 参加者100名 ● 12月27日・28日 オリーブ恒例の餅つきを行ない、お供え餅を作りました。
いきいき訪問看護 ステーション鶴の木 狭山市入間川・入間川 東地域包括支援センター	● 11月11日 狭山市内訪問看護ステーション合同看護研究発表会 参加者12名
立川市北東部わかば 地域包括支援センター	● 地域活動 10月 5日 入間川東地区民生委員との定例情報交換会(狭山市社会福祉会館) 参加者22名 11月 6日 入間川地区民生委員との定例情報交換会(狭山市社会福祉会館) 参加者19名 12月17日 平成21年度第3回『日常生活圏域会議』(入間川包括会議室) 参加者18名 ● 地域型認知症予防プログラム 『脳力アップ教室』 11月30日 17回目、12月 7日 18回目 参加者計32名 ● ミニ講座 11月25日 『咳エチケットについて』(沢公民館) 参加者20名 12月15日 『ちよっとお茶を飲んでいきませんか』(上諏訪コミュニティーセンター) 参加者30名 ● 出前介護予防教室 【田中公民館】 10月29日 『認知症予防について』 参加者11名 10月22日 『無理せず続けてできる運動とお口の清潔について』 参加者11名 【上諏訪コミュニティーセンター】 11月24日 『無理せず続けてできる運動』 参加者25名 12月 1日 『口腔ケア、しっかり嚥んで食べよう』 参加者21名 12月 8日 『認知症予防について』 参加者18名 ● 元気ハツラツ教室 11月18日 『ころばぬ先の杖と知恵』(中央公民館) 参加者49名 ● 認知症サポーター養成講座 10月20日 チョボラの会 参加者14名 10月22日 サティ狭山店 参加者30名 11月27日 中央公民館 参加者21名 12月 7日 入間川東地区民生委員児童委員協議会 参加者22名 ● 地域活動 10月 5日 防犯フェア(幸福社会館) 参加者32名 10月23日・24日、11月13日・22日、12月11日・27日 『男の料理教室』(幸、若葉会館) 参加者 延98名 11月13日、12月11日 『終の住処はどこ?学習会』(若葉会館) 参加者99名 11月28日 認知症予防講座(第2団地自治会) 参加者48名 11月28日、12月21日 『家族介護教室』(南砂小学校、幸学習館) 参加者 延20名 12月 4日 小地域ケア会議『援助者のメンタルヘルス』(老健わかば) 参加者25名 12月21日 認知症サポーター養成講座(いなげや本社) 幹部職員12名